

佳作 お父さんのせなか

愛知県
岡崎市立緑丘小学校 五年

倉田 七生

「ななちゃんマッサージしてくれる？」父のいつもの口ぐせだ。私は手がつかれるし、やりたい事があるのにめんどくさいなあと、思う。でもたまにやつてあげると目をつぶつて、「あゝ気持ちいい」と温泉にでもつかっているかのよう言う。父のせなかは大きい。私が乗ってもびくともしない。

どちらかと言うと、私は父親似だ。顔も似ているけど、性格もまた似ている。父の話はおもしろい。父と私はお笑いのせつみようコンビだ。夕食の時、その日にあった事など、いろんな話題でもり上がる。大した話ではないけれど、父が話すとおもしろい。父の帰りがおそいと、「なんか静かだね、お父さんがないともり上がらないね」と兄が言う。私もそう思う。

父はキャンプがしゅみだ。計画からじゅんびまでひとりで行っている。パンフレットやいろんな情報を集めて私たちにどこへ行くか聞いて決める。兄が中学に上がるまでは夏は毎月一回ぐらい行っていた。私が小さい時から行っているが、どれも楽しい思い出ばかりだ。夏はキャンプ、冬はスキー、二年を通していろんな経験をさせてもらっているありがたいなあと思う。

また以前、こんな話を聞いた。私がまだ2〜3才のころ

に家族でプールに行った時の話だ。子どもすべり台から、すべる私を父は近くで見ているそうだった。すべり台からプールに飛びこんだ私は水の中からすぐに出てこなかった。父が見守っていると、ゆっくりとうかんできた。びっくりした父は、あわてて走って行って私をすくい上げた。その時父は、心ぞうが止まりそうなくらいあせつて、こうかいしたらしい。父がそばにいてくれなかったら、私はいつたいていどうなっていたのだろう。そんなたよれる父は朝から晩まで二日も休まず働いている。休みの日も家族のために、いろいろ動いてくれて、自分の時間もあまりないと思う。父はビールが大好きだ。私がビールをそそいであげると、「この時のために一日がんばってきたんだ」と言い、父は二日のつかれをビールでいやす。父ががんばって仕事をしているから、今まで不自由なく、くらしてこれたんだと思う。

体を大事にしていつまでも、長生きしてほしい。そして私が大きくなってもいっしょにキャンプに行けたらいいなあと思う。